



NO.1049

2015.12.20

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
五四三・四四五八
F四三・四四五七

12月議会 松浦議員の一般質問

介護保険の改善を求める



12月議会は、本会議から2つの常任委員会に負託された議案を、それぞれ2日間にわたって委員会でも審査されました。市議会は、15日から17日まで一般質問に入りました。

日本共産党の松浦議員は、16日、一般質問に立ち介護報酬制度が、今年4月から介護報酬が大幅に削減されたことによる介護施設への影響について質問しました。

市の答弁は、施設によって影響は違うが、少なからずあると答えました。

松浦議員は、影響が大きいのはグループホームで、「ある事業所では経営悪化のため入居者に負担を増やさざるを得なかった。また、あるグループホームの労働者は、月々の給料は上がったがボーナスが大幅に減らされた」などの実態を示して対応を求めました。

市は、第6期介護保険計画が始まって1年目であり、来年、事業所にアンケートをとって、状況把握し必要があれば国に改善の要望を出すなどしたいと答えました。

TPPの問題では、重要5品目など具体例をあげて「大筋合意」は国会決議違反だとして、安倍内閣に地方の声を届けるように求め

ましたが、年明けの通常国会の動向を注視したいとの答えで明確な答弁はありませんでした。

市民健康プールについては、プールの利用状況と改善点について、利用者の具体的な声を示して改善を求めました。コミュニティバスの問題では、地域住民の声を受け、新型バスの改善やバス停の除雪の改善などを求め、バス利用者を増やすためにも安心して外出できるように環境をつくるよう求めました。

戦争法（安保法制）廃止 2000万署名に協力！

「戦争法廃止」を目指し運動を続ける「ストップの会」は、13日コープサツポ口店前で署名行動を行いました。

横断幕やのぼり旗を出し、チラシを渡しながら「子供達を戦場に送るようなことにならない為に」と協力を訴えていました。

隣で「歳末共同募金」を訴えていたスポーツ少年（小学生）たちに負けなように約40分で57筆が集まりました。次回は20日（日）に行う予定です。

松浦奮戦も！

12月議会が17日に終わりました。今回の議会は、マイナンバー制度の

実施が1月1日から始まるため、その関係の条例の一部改正の提案が、3件ありました。私は、9月議会でもマイナンバー制度の問題点を明らかにする質問を行い、補正ではマイナンバー制度導入事業などに係わる議案に、国民が制度について理解していない状況での実施は無謀だとして反対しました。

今回の議案も全国で通知カードが届いていない。性同一性障害者への影響や視覚障がい者への点字による通知がなされていないなどの問題が、今なお起きています。また、プライバシーの侵害などについても指摘して反対しました。現状では、マイナンバー制度の実施は、あまりにも問題がありすぎです。凍結・または中止を求めます。

菊地ひろし まっしぐら！

共産党も参加する「ストップ！戦争法網走の会」が提出

した「戦争法廃止」を求める請願の審査が12月10日に総務経済委員会であり、傍聴に行ってきました。松浦議員の請願に賛成の意見の後、工藤議員は「お金だけ出せばいいのかと過去に批判を浴びたことがある」と述べ請願趣旨に反対、又公明党の佐々木議員は「戦争させない法律だと思っている」と述べ反対しました。

安保法制は「海外で戦争のできる（武器を使用出来る）国」にしようとしています。しかし武力では新たな憎しみとテロしか生まないことは、アフガン、イラク戦争後の14年間ではつきりしたのではないのでしょうか。

今全国では「戦争法廃止のために野党は協力して選挙を戦って欲しい」と新しい運動が起きています。戦争法の危険な中身をもっと知らせ、2000万署名を広げ市民のみなさんと一緒に「戦争法廃止」のために頑張りたいと思います。

流水

「来夏の参院選では18歳からの選挙権。高校生の政治活動は憲法で保障された基本的人権。国は『憲法上、あなた達高校生には政治的

活動の自由がある』と宣言すべき」という発言に、そうだ政治的活動は年齢にかかわらず人としての基本的人権なんだ、と納得し「憲法違反の戦争法が強行採決され、たくさんの人々が全国各地で廃止を！と行動を広げている」という発言にはそうだ、そうだ、網走でもデモや集会にたくさんの方が参加し今も続いている、と思いきり起こしていた▼国連認証のNGOである新婦人の大会が過日ひらかれ、様々な人の声を聞く機会があった。▼また「30年以上、母親たちが声を出し続け、子ども医療費の無料化が全国に広がっている」「ずーっと要望していたプールの通年化が実現して今年新しいプールができた」など、長い時間をかけてやっと手に入れた成果を語る言葉に、私達が声を出していかなければ「声」は届かない、誰かがやってくれるわけじゃない、と思う。▼さらに「沖繩辺野古の基地問題をどこか他人事と思っていたら11月中旬、網走市街地の上空を軍用ヘリが低空飛行で飛んでいました。戦争の臭いが、すぐそこまで来ている」といった発言に、私達はその臭いをキャッチするセンサーを鋭くしなければ気づいた時には遅すぎた、ということになりかねない、と参加者とともに大きくくうなずく。▼「声」に出す、出来ることをする、傍観者ではなく主体者として暮らす、ということであらためて考えた集まりでした。（た）